



**▲警告**  
これに従わない場合、死亡または重傷を負う可能性があります。  
<

**注意**  
これに従わない場合、製品または隣接物に、損傷または故障が発生します。  
<

**法的ガイドライン**  
このマニュアルの情報は2021年9月の状態を反映しています。

デバイスの不正改造や不適切な使用は許可されていません。これらの場合、Schaefflerは一切の責任を負いません。

潤滑装置CONCEPT1は、ATEX指令およびIECEXに準拠して認定されています。製品に対する変更や、この指令や標準に認定されていない付属品を使用すると、この認定が無効となります。

**使用目的**  
自動潤滑装置CONCEPT1は、転がり軸受やすべり軸受、チェーン、リアガイドシステム、および歯車の潤滑に使用されます。

**説明**  
構成部品 > ②:  
① ドライブユニット  
② スケール  
③ カバー  
④ ハウジング  
⑤ 圧力室  
⑥ ピストン  
⑦ 潤滑剤  
⑧ 接続部

**安全ガイドライン**  
潤滑装置の接続部を開封せずに運転状態にすることや、潤滑剤の配管が詰まった場合、潤滑装置内の圧力が約5 barまで上昇することがあります。圧力が約5 barになると、ハウジングと漏斗の間に設定された所定の破断箇所が破断する設計となっています。それによりピストン後方の圧力が開放され、グリースまたは潤滑油はその破断箇所から流出します。

潤滑装置に潤滑剤を充填する際、潤滑装置が満杯であると、ハンドバーによる圧力 (400 bar) で最大許容圧力に達してしまい、結果として装置を破損させてしまう可能性があります。これに注意してください。

それぞれ用途に応じた防爆要求仕様を満たす認定付属品のみを使用することができます。

**▲警告**  
爆発性雰囲気のある潤滑装置の場合、清掃中の帯電により、静電気放電のリスクがあります。潤滑装置は湿った布でのみ清掃してください。  
>  
潤滑装置を清掃し、損傷がないかチェックしてください。

潤滑油を再充填する場合、新しいチェックバルブを準備してください (使用済みのバルブを再利用することはできません)。  
>  
それ以降の作業内容:  
>  
初回充填作業を参照してください。

**注意**  
不適切な潤滑剤 (グリースまたは潤滑油) による故障。Schaefflerが潤滑装置CONCEPT1の使用を承認した潤滑剤のみを使用してください。

グリースの場合、なじみに対して良好な安定性を備える基油で、かつ低粘度のものを選定してください (≒ NLGI 2)。  
>  
潤滑装置CONCEPT1がお客様により充填され、充填が適切に行われないか、これらの潤滑装置に対してSchaefflerが承認していない潤滑剤が使用された場合、潤滑装置の不動作または故障に関してSchaefflerに対してお客様からの請求内容は無効とされます。ご質問がある場合は、Schaefflerにお問い合わせください。

**潤滑剤の概要**  
あらかじめ潤滑剤が封入されている潤滑装置には、Schaefflerが提供する高性能のArcano潤滑剤が充填されています。

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

潤滑装置を起動してから実際にグリースが放出されてくるまでの時間です。この時間は、設定された給脂間隔と周囲温度によって決まります。

例えば+20 °Cの周囲温度と12ヶ月の給脂期間の場合、起動時間は1週間になります。-20 °Cの場合は、起動時間は倍になります。

起動時間を短縮するために、給脂期間を最初 (1〜2日間) は1ヶ月に設定し、後になってから必要な期間に設定することができます。

**初回のグリース充填**  
プラスチック製の棒などを使用して、ピストンを接続部に向かって最後まで押します > ⑧。  
>  
再充填用ニップル (#21または#22) を、グリースガンまたはドラムポンプ > ⑨のノズルに、ねじ込んで取り付けます。  
>  
再充填ニップルの上に、空の潤滑装置を取り付けます > ⑨。

**注意**  
潤滑装置は6 barを超える圧力に至ると損傷します。潤滑装置が満たされたら、直ちに再充填作業をやめ、それ以上圧力を上げないでください。  
>  
ピストンが完全に押し戻されるまでグリースを潤滑装置に押し込み、潤滑装置 > ⑨にエアボケットがないことを確認します。  
>  
潤滑装置をキャップで閉めてください > ⑩。  
>  
Oリングが正しく付いていることを確認し、ドライブユニットを取り付けます > ⑪、締付トルク1.5 Nm ~ 2 Nm。  
>  
ドライブユニットの矢印を目盛の [0] に合わせ、目盛を手で押します > ⑫。  
>  
カバーを手で押してください > ⑫。  
>  
潤滑剤の名前、製造ロット、充填日をラベルに記録してください > ⑬。

**初回の潤滑油の充填**  
プラスチック製の棒などを使用して、ピストンをドライブユニットに向かって最後まで押し戻します > ⑧。  
>  
漏斗を利用して、潤滑油を潤滑油出口のふちまで充填させます > ⑩。  
>  
黄色のチェックバルブを付けます > ⑬。  
>  
ドライブユニット、スケール、カバーを取り付け、ラベルに記入してください。初回のグリース充填を参照 > ⑪。

**グリースまたは潤滑油の再充填**  
>  
カバーを取り外してください。  
>  
目盛とドライブユニットを取り外して、地域の規制に準拠して廃棄してください。

**▲警告**  
爆発性雰囲気のある潤滑装置の場合、清掃中の帯電により、静電気放電のリスクがあります。潤滑装置は湿った布でのみ清掃してください。  
>  
潤滑装置を清掃し、損傷がないかチェックしてください。

潤滑油を再充填する場合、新しいチェックバルブを準備してください (使用済みのバルブを再利用することはできません)。  
>  
それ以降の作業内容:  
>  
初回充填作業を参照してください。

**注意**  
不適切な潤滑剤 (グリースまたは潤滑油) による故障。Schaefflerが潤滑装置CONCEPT1の使用を承認した潤滑剤のみを使用してください。

グリースの場合、なじみに対して良好な安定性を備える基油で、かつ低粘度のものを選定してください (≒ NLGI 2)。  
>  
潤滑装置CONCEPT1がお客様により充填され、充填が適切に行われないか、これらの潤滑装置に対してSchaefflerが承認していない潤滑剤が使用された場合、潤滑装置の不動作または故障に関してSchaefflerに対してお客様からの請求内容は無効とされます。ご質問がある場合は、Schaefflerにお問い合わせください。

**潤滑剤の概要**  
あらかじめ潤滑剤が封入されている潤滑装置には、Schaefflerが提供する高性能のArcano潤滑剤が充填されています。

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**▲警告**  
不適切に廃棄すると爆発のリスクがあります。裸火や過剰な熱にドライブユニットを決してさらさないでください。  
<  
空となった装置を解体し、地域の規制に準拠して廃棄してください > ⑬。

**▲警告**  
このマニュアルの情報は2021年9月の状態を反映しています。

デバイスの不正改造や不適切な使用は許可されていません。これらの場合、Schaefflerは一切の責任を負いません。

潤滑装置CONCEPT1は、ATEX指令およびIECEXに準拠して認定されています。製品に対する変更や、この指令や標準に認定されていない付属品を使用すると、この認定が無効となります。

**使用目的**  
自動潤滑装置CONCEPT1は、転がり軸受やすべり軸受、チェーン、リアガイドシステム、および歯車の潤滑に使用されます。

**説明**  
構成部品 > ②:  
① ドライブユニット  
② スケール  
③ カバー  
④ ハウジング  
⑤ 圧力室  
⑥ ピストン  
⑦ 潤滑剤  
⑧ 接続部

**安全ガイドライン**  
潤滑装置の接続部を開封せずに運転状態にすることや、潤滑剤の配管が詰まった場合、潤滑装置内の圧力が約5 barまで上昇することがあります。圧力が約5 barになると、ハウジングと漏斗の間に設定された所定の破断箇所が破断する設計となっています。それによりピストン後方の圧力が開放され、グリースまたは潤滑油はその破断箇所から流出します。

潤滑装置に潤滑剤を充填する際、潤滑装置が満杯であると、ハンドバーによる圧力 (400 bar) で最大許容圧力に達してしまい、結果として装置を破損させてしまう可能性があります。これに注意してください。

それぞれ用途に応じた防爆要求仕様を満たす認定付属品のみを使用することができます。

**▲警告**  
爆発性雰囲気のある潤滑装置の場合、清掃中の帯電により、静電気放電のリスクがあります。潤滑装置は湿った布でのみ清掃してください。  
>  
潤滑装置を清掃し、損傷がないかチェックしてください。

潤滑油を再充填する場合、新しいチェックバルブを準備してください (使用済みのバルブを再利用することはできません)。  
>  
それ以降の作業内容:  
>  
初回充填作業を参照してください。

**注意**  
不適切な潤滑剤 (グリースまたは潤滑油) による故障。Schaefflerが潤滑装置CONCEPT1の使用を承認した潤滑剤のみを使用してください。

グリースの場合、なじみに対して良好な安定性を備える基油で、かつ低粘度のものを選定してください (≒ NLGI 2)。  
>  
潤滑装置CONCEPT1がお客様により充填され、充填が適切に行われないか、これらの潤滑装置に対してSchaefflerが承認していない潤滑剤が使用された場合、潤滑装置の不動作または故障に関してSchaefflerに対してお客様からの請求内容は無効とされます。ご質問がある場合は、Schaefflerにお問い合わせください。

**潤滑剤の概要**  
あらかじめ潤滑剤が封入されている潤滑装置には、Schaefflerが提供する高性能のArcano潤滑剤が充填されています。

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**潤滑剤**

**▲경고**  
이러한 주의를 따르지 않을 경우 사망이나 심각한 부상이 발생할 수 있습니다.<

**주의**  
이러한 주의를 따르지 않을 경우 제품이나 주변 구조물이 손상되거나 기능 불량이 발생할 수 있습니다.<

**법률 지침**  
본 설명서의 정보는 2021년 9월 기준으로 작성되었습니다。

장차 무단 개조나 부적절한 사용은 허용되지 않습니다。이러한 경우 Schaeffler는 어떠한 책임도 지지 않습니다。

윤활 장치 CONCEPT1은 ATEX 지침 및 IECEX 에 따라 인증되었습니다。제품을 변경하거나 이 지침 또는 표준에 따라 인증되지 않은 부속품을 사용하면 이 인증이 무효화됩니다。

**사용 목적**  
자동 윤활 장치 CONCEPT1 은 롤링 베어링 및 플레인 베어링, 체인, 가이드 시스템, 개방형 기어박스를 윤활하는 데 사용됩니다。

**설명**  
부품 > ②:  
① 드라이브 유닛  
② 스케일  
③ 커버  
④ 하우징  
⑤ 압력 챔버  
⑥ 피스톤  
⑦ 윤활제  
⑧ 토출구

**안전 지침**  
윤활 장치를 개방하지 않고 운전하거나 윤활 장치 디스크 막힌 상태로 작동하면 윤활 장치의 압력은 약 5 bar까지 증가할 수 있습니다。압력인 6 bar 무거운까지 증가하면 윤활 장치의 하우징 내부에 미리 정해진 부위에서 파손이 일어나게 됩니다。지정 부위 파손이 발생하면 내부의 압력이 감소하고 그리스나 오일이 파손된 부위를 통해 유출될 수 있습니다。

윤활제 충전 시, 압송 상태에서 수동 레버를 누를 경우 압력 증가하며 최대 압력 (400 bar) 에 도달하면 파손될 수도 있음을 유념하시기 바랍니다。

작업 분야의 압력에 대한 요구 사항이 포함된 인증을 받은 부속품만 사용할 수 있습니다。

**▲경고**  
폭발이 일어나기 쉬운 대기 환경에 적용할 경우 원치 않는 브러쉬에 의한 방전이 윤활 장치의 표면에 정전기될 수 있는 위험이 있습니다。이러한 위험을 최소화하려면 적절한 예방 조치를 취해야 합니다。

윤활 장치는 젖은 천으로 말끔히 청소하십시오。윤활 장치에 정전기가 발생할 수 있으므로 공기가 흐르는 곳에 노출시키지 마십시오。<

**설치 및 시운전**  
허용되는 연결 호스의 최대 길이는 0.5 m이며 권장되는 내경은 6 mm ~ 8 mm 입니다。수축하거나 왜곡을 이루지 않도록 해야 하며, 라인 저항을 최소화해야 합니다。

윤활 장치는 정전기가 발생할 수 있으므로 공기가 흐르는 곳에 노출시키지 마십시오。<

**토출 시간 설정**  
토출 시간과 이에 따른 토출량은 드라이브 유닛의 주변 온도에 따라 설정됩니다。

**⑦7 ARCALUB-C1-60**

**온도**

**설정**

**설정**

**설정**

**설정**

**설정**

**설정**

**설정**

**설정**

